

第 96 回定時株主総会招集ご通知に際しての
インターネット開示事項

連結注記表…………… 1 ページ
個別注記表…………… 9 ページ

「連結注記表」及び「個別注記表」につきましては、法令及び定款第 15 条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<https://www.kyokuyo.co.jp>)に掲載することにより株主の皆様提供しております。

株式会社 極 洋

連結注記表

【連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等】

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 24 社

主要な連結子会社の名称

キョクヨー秋津冷蔵(株)、極洋商事(株)、極洋食品(株)、極洋水産(株)、キョクヨー総合サービス(株)、キョクヨーフーズ(株)、サポートフーズ(株)、キョクヨーマリンファーム(株)、(株)ジョッキ、キョクヨーマリン愛媛(株)、極洋フレッシュ(株)、海洋フーズ(株)、極洋フィードワンマリン(株)、インテグレート・システム(株)、指宿食品(株)、(株)エイペックス・キョクヨー、

Kyokuyo America Corporation、K&U Enterprise Co.,Ltd.、青島極洋貿易有限公司、Kyokuyo Europe B.V.、Kyokuyo(Thailand)Co.,Ltd.他 3 社

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数 2 社

持分法を適用した主要な関連会社の名称

(株)STI フードホールディングス他 1 社

2018 年 1 月 1 日の株式交換により、当社の持分法適用関連会社は(株)新東京フードから(株)STI フードホールディングスになりました。

なお、(株)STI フードホールディングスについては、同社の組織再編に伴い、同社の子会社に対する投資について持分法を適用して認識した損益が連結計算書類に与える影響の重要性が増したため、当連結会計年度より、同社子会社の損益を(株)STI フードホールディングスの損益に含めて計算しており、持分法適用会社数は(株)STI フードホールディングスグループを 1 社として表示しております。

(2) 持分法を適用していない関連会社の名称等

KAPPA CREATE KOREA Co.,Ltd.

持分法を適用していない関連会社に対する投資については、連結純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続きについて特に記載すべき事項

決算日が連結決算日と異なる会社について、当該会社の事業年度に係る計算書類を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Kyokuyo America Corporation、K&U Enterprise Co.,Ltd.、青島極洋貿易有限公司、Kyokuyo Europe B.V.、Kyokuyo(Thailand)Co.,Ltd.他 1 社の決算日は 12 月末日であります。連結計算書類の作成にあたっては、同日現在の計算書類を使用し、連結決算日までに生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券 時価のあるもの 連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの 移動平均法による原価法

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

主として総平均法による原価法

なお、収益性の低下したたな卸資産については、帳簿価額を切下げております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

主として定額法によっております。

(リース資産を除く)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15年～31年

機械装置及び運搬具 10年

船舶 5年～12年

② 無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用

(リース資産を除く)

可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、当社及び国内連結子会社は、支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員の賞与の支出に備えるため、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

④ 特別修繕引当金

船舶の特別修繕に要する費用の支出に備えるため、将来の修繕見積額に基づき計上しております。

⑤ 役員株式給付引当金

取締役株式給付規程に基づく当社の取締役（社外取締役を除く）への当社株式の給付に備えるため、当連結会計年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

② 重要なヘッジ会計の方法

a. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約取引については、振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については、特例処理によっております。

b. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 為替予約取引及び金利スワップ取引

ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引及び借入金の利息

c. ヘッジ方針

為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で、為替予約取引及び金利スワップ取引を利用しております。

d. ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、当該取引とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を相殺するものであることが事前に想定されるため、有効性の評価を省略しております。金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

③ のれんの償却に関する事項

のれんは、10年の定額法により償却しております。

④ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

5. 表示方法の変更

連結貸借対照表

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号 平成30年3月26日)を当連結会計年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前連結会計年度において「流動資産」に区分しておりました「繰延税金資産」(前連結会計年度1,170百万円)は、当連結会計年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」2,181百万円に含めて表示しております。

6. 追加情報

取締役に対する業績連動型株式報酬制度

当社は、取締役（社外取締役を除く）を対象に、中長期的視野をもって、業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、業績連動型株式報酬制度（以下、「本制度」という。）を導入しております。

① 取引の概要

本制度は、当社が信託に対して金銭を拠出し、当該信託が当該金銭を原資として当社株式を取得し、当該信託を通じて取締役に対して、当社が定める役員報酬に係る取締役株式給付規程に従って、業績達成度、業績貢献度に応じて当社株式を給付する業績連動型の株式報酬制度です。なお、取締役が当社株式の給付を受ける時期は、原則として取締役の退任時となります。

② 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度末の当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、119百万円及び38,512株であります。

【連結貸借対照表関係注記】

1. 担保資産及び担保付債務

(1) 担保に供している資産

| | | |
|-----------|-----|-----|
| 建物及び構築物 | 3 | 百万円 |
| 機械装置及び運搬具 | 39 | 〃 |
| 船舶 | 211 | 〃 |
| 計 | 254 | 〃 |

(2) 担保設定の原因となる債務

| | | |
|-------|-----|-----|
| 短期借入金 | 218 | 百万円 |
| 長期借入金 | 151 | 〃 |
| 計 | 370 | 〃 |

2. 有形固定資産減価償却累計額

20,466 百万円

3. 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

| | | |
|----------------|-------|-----|
| 圧縮記帳額 | 1,795 | 百万円 |
| (うち、建物及び構築物) | 1,130 | 〃 |
| (うち、機械装置及び運搬具) | 651 | 〃 |
| (うち、船舶) | 5 | 〃 |
| (うち、その他) | 7 | 〃 |

【連結損益計算書関係注記】

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 減損損失 |
|--------------------------------|----------|-----------|------|
| 極洋フィードワンマリン(株) (愛媛県南宇和郡愛南町) | 鯉・鮪事業用資産 | 建物及び構築物 | 99 |
| | | 機械装置及び運搬具 | 1 |
| | | 船舶 | 7 |
| | | 有形リース資産 | 6 |
| | | その他 | 41 |

上記資産グループについては、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであることから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 156 百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

【連結株主資本等変動計算書関係注記】

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| | 当連結会計年度期首 株式数(株) | 当連結会計年度 増加株式数(株) | 当連結会計年度 減少株式数(株) | 当連結会計年度末 株式数(株) |
|----------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 発行済株式数 普通株式 | 10,928,283 | — | — | 10,928,283 |

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|------------|
| 2018年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 649 | 60 | 2018年3月31日 | 2018年6月27日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの
2019年6月25日開催の定時株主総会において、次の議案を付議いたします。

| 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 配当金の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------|-----------------|--------|-----------------|------------|------------|
| 普通株式 | 760 | 利益剰余金 | 70 | 2019年3月31日 | 2019年6月26日 |

【金融商品関係注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用について短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。借入金の用途は運転資金(主として短期)及び設備資金(長期)であります。なお、デリバティブは、社内管理規程に従い、実需の範囲で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日（当連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

（（注2）を参照ください。）

（単位：百万円）

| | 連結貸借対照表 計上額（※1） | 時価（※1） | 差額 |
|-----------------|--------------------|----------|-----|
| (1)現金及び預金 | 4,818 | 4,818 | — |
| (2)受取手形及び売掛金 | 35,540 | 35,540 | — |
| (3)投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 5,380 | 5,380 | — |
| (4)支払手形及び買掛金 | (9,208) | (9,208) | — |
| (5)短期借入金 | (20,094) | (20,094) | — |
| (6)コマーシャル・ペーパー | (10,000) | (10,000) | — |
| (7)長期借入金 | (27,568) | (27,797) | 229 |
| (8)デリバティブ取引(※2) | 33 | 33 | — |

（※1）負債に計上されているものについては、()で示しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

（注1）金融商品の時価算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式取引所の価格によっております。なお、有価証券はその他有価証券として保有しており、これに関する連結貸借対照表計上額と取得原価との差額は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

| | 種類 | 連結貸借対照表 計上額 | 取得原価 | 差額 |
|----------------------------|----|----------------|-------|-------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | 株式 | 4,623 | 2,700 | 1,923 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | 株式 | 757 | 970 | △212 |
| 合計 | | 5,380 | 3,670 | 1,710 |

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、並びに(6) コマーシャル・ペーパー

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

なお、短期借入金のうち一年内返済長期借入金 4,374 百万円は、長期借入金に含めております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8) デリバティブ取引

①ヘッジ会計が適用されていないもの

該当事項はありません。

②ヘッジ会計が適用されているもの

ア. 通貨関連

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 時価 |
|-----------|------------------|---------|-------|-------|
| 原則的処理方法 | 為替予約取引 売建 米ドル | 売掛金 | 373 | △0 |
| | 買建 米ドル | 買掛金 | 5,702 | 34 |
| 為替予約の振当処理 | 為替予約取引 売建 米ドル | 売掛金 | 531 | (注 3) |
| | 買建 米ドル | 買掛金 | 55 | (注 3) |
| 合計 | | | 6,662 | 33 |

- (注) 1. 契約額等のうち 1 年を超えるものはありません。
2. 時価の算定方法 先物為替相場によっております。
3. 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金及び買掛金の時価に含めて記載しております。

イ. 金利関連

(単位：百万円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額等 | 契約額等のうち 1 年超 | 時価 |
|-------------|-------------------------|---------|--------|--------------|-----|
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 (受取変動・支払固定) | 長期借入金 | 13,989 | 11,735 | (注) |

- (注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 |
|-------|------------|
| 非上場株式 | 867 |

上記については、市場価格がなく、且つ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

【1 株当たり情報関係注記】

- 1 株当たり純資産額 2,941 円 26 銭
- 2 1 株当たり当期純利益 269 円 63 銭

(算定上の基礎)

| | |
|------------------------|-----------|
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,914 百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | — 百万円 |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,914 百万円 |
| 普通株式の期中平均株式数 | 10,810 千株 |

【その他の注記】

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

| | | |
|-------------------|-------------|---|
| 子会社株式及び 関連会社株式 | 移動平均法による原価法 | |
| その他有価証券 | 時価のあるもの | 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| | 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |

② デリバティブ

時価法

③ たな卸資産

総平均法による原価法

なお、収益性の低下したたな卸資産については帳簿価額を切下げております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

| | |
|---------|---------|
| 建物及び構築物 | 15年～31年 |
| 機械装置 | 10年 |
| 車両運搬具 | 4年 |
| 船舶 | 5年～7年 |

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

a. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

b. 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

④ 役員株式給付引当金

取締役株式給付規程に基づく当社の取締役（社外取締役を除く）への当社株式の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の見込額に基づき計上しております。

(4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

② ヘッジ会計の方法

a. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約取引については、振当処理に、特例処理の要件を満たしている金利スワップ取引については、特例処理によっております。

b. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 為替予約取引及び金利スワップ取引

ヘッジ対象 外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引及び借入金の利息

c. ヘッジ方針

為替変動リスク及び金利変動リスクを回避する目的で、為替予約取引及び金利スワップ取引を利用しております。

d. ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、当該取引とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を相殺するものであることが事前に想定されるため、有効性の評価を省略しております。金利スワップ取引については、特例処理の要件を満たしているため有効性の評価を省略しております。

③ 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

④ 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 表示方法の変更

貸借対照表

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第 28 号 平成 30 年 2 月 16 日）に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」（法務省令第 5 号 平成 30 年 3 月 26 日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度において「流動資産」に区分しておりました「繰延税金資産」（前事業年度 784 百万円）は、当事業年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」823 百万円に含めて表示しております。

3. 追加情報

取締役に対する業績連動型株式報酬制度

取締役に対する業績連動型の株式報酬制度の導入に関する注記については、連結注記表「6.追加情報」に記載しているため、省略しております。

4. 貸借対照表に関する事項

(1) 有形固定資産減価償却累計額 5,758 百万円

(2) 圧縮記帳額

国庫補助金により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

| | |
|----------------|-----------|
| 圧縮記帳額 | 1,375 百万円 |
| （うち、建物） | 920 ” |
| （うち、構築物） | 8 ” |
| （うち、機械装置） | 443 ” |
| （うち、工具、器具及び備品） | 2 ” |

(3) 保証債務

下記の会社の金融機関からの借入金等に対して、次のとおり債務保証を行っております。

| | |
|-----------------------------|-----------|
| 株ジョッキ | 3,357 百万円 |
| Kyokuyo America Corporation | 2,091 ” |
| キョクヨーマリンファーム(株) | 1,170 ” |
| キョクヨーフーズ(株) | 1,063 ” |
| その他 | 1,687 ” |

計 9,370 ”
(内 当社分担保証額 9,183 百万円)

(4) 関係会社に対する金銭債権債務

| | |
|----------|------------|
| ① 短期金銭債権 | 11,833 百万円 |
| ② 長期金銭債権 | 405 ” |
| ③ 短期金銭債務 | 7,745 ” |
| ④ 長期金銭債務 | 13 ” |

5. 損益計算書に関する事項

| | |
|----------------------|------------|
| (1) 関係会社に対する売上高 | 37,117 百万円 |
| (2) 関係会社からの仕入高等 | 63,512 百万円 |
| (3) 関係会社との営業取引以外の取引高 | 560 百万円 |

6. 株主資本等変動計算書に関する事項

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

| | |
|------|-----------|
| 普通株式 | 109,112 株 |
|------|-----------|

(注)当事業年度末日の自己株式数には、役員向け株式給付信託が所有する当社株式を含めております。

7. 税効果会計に関する事項

(1) 繰延税金資産の発生的主要原因別内訳

| | |
|-------------|----------|
| 退職給付引当金 | 778 百万円 |
| 賞与引当金 | 175 " |
| 貸倒引当金 | 689 " |
| 商製品評価損 | 32 " |
| 未払費用 | 242 " |
| 未払事業税 | 32 " |
| 復興特区の繰越税額控除 | 73 " |
| 減損損失累計額 | 244 " |
| その他 | 222 " |
| 繰延税金資産小計 | 2,491 " |
| 評価性引当額 | △1,137 " |
| 繰延税金資産合計 | 1,354 " |

(2) 繰延税金負債の発生的主要原因別内訳

| | |
|--------------|---------|
| その他有価証券評価差額金 | 500 百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | 10 " |
| その他 | 19 " |
| 繰延税金負債合計 | 530 " |

8. 関連当事者との取引に関する事項

子会社及び関連会社等

| 種類 | 名称 | 議決権等の所有 (被所有) 割合 | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (注1) | 科目 | 期末残高 |
|------|--------------------------------|-----------------------------|--|----------------------|-------------------------|------------|-----------------------|
| 子会社 | 極洋食品株式会社 | % 所有 直接90.0 間接10.0 | 当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任 | 原料販売(注2) 製品仕入(注2) | 百万円 10,698 15,599 | 売掛金 買掛金 | 百万円 2,937 1,424 |
| 子会社 | 極洋水産株式会社 | 所有 直接100.0 | 当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任 | 資金の預り(注3) | — | 預り金 | 3,681 |
| 子会社 | キョクヨーフーズ 株式会社 | 所有 直接100.0 | 当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任 | 債務保証(注4) | 1,063 | — | — |
| 子会社 | キョクヨーマリン ファーム株式会社 | 所有 直接83.3 間接16.7 | 当社は製品を仕入れ 役員の兼任 | 債務保証(注4) | 1,170 | — | — |
| 子会社 | 株式会社ジョッキ | 所有 直接100.0 | 当社及び子会社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ 役員の兼任 | 債務保証(注4) | 3,357 | — | — |
| 子会社 | Kyokuyo America Corporation | 所有 直接100.0 | 当社及び子会社の製商品を販売し、 又当社は商品を仕入れ | 債務保証(注4) | 2,091 | — | — |
| 子会社 | K&U Enterprise Co.,Ltd. | 所有 直接50.0 | 当社は原料を販売し、 又当社は製品を仕入れ | 原料販売(注2) | 3,714 | 売掛金 | 2,539 |
| 関連会社 | 株式会社STIフード ホールディングス | 所有 直接30.0 | 当社の製商品を販売 役員の兼任 | 製商品販売(注2) | 3,219 | 売掛金 | 1,007 |

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1)取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2)取引条件は、市場の実勢価格等を参考にして、その都度交渉の上決定しております。

(注3)資金の預りについては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。なお、頻繁に発生する取引のため、取引金額の記載を省略しております。

(注4)金融機関からの借入に対して債務保証を行ったものであります。なお、取引金額には債務保証の期末残高を記載しております。

9. 1 株当たり情報に関する事項

| | |
|-----------------|--------------|
| (1) 1 株当たり純資産額 | 2,247 円 61 銭 |
| (2) 1 株当たり当期純利益 | 143 円 49 銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 当期純利益 | 1,551 百万円 |
| 普通株主に帰属しない金額 | — 百万円 |
| 普通株式に係る当期純利益 | 1,551 百万円 |
| 普通株式の期中平均株式数 | 10,810 千株 |

10. 連結配当規制適用会社

当社は、当事業年度の末日が最終事業年度の末日となる時後、連結配当規制適用会社となります。

11. その他の注記

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。